HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	退職記念号に寄せて
Author(s)	間宮, 正幸
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 132, 1-3
Issue Date	2018-08-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72004
Type	other
File Information	010-1882-1669-132.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

退職記念号に寄せて

間　宮　正　幸

1

2017年３月18日，たくさんの方が私の拙い最終講義を聴いてくださった。お礼の申しあげようもない。ただただ感謝である。

四十年前行脚日　（四十年前　行脚の日）
辛苦畫虎猫不似　（辛苦　虎を画いて猫にも似ず）　良寛

最終講義の中で，良寛詩を引用して，40年もの間修行してきたというのに虎を描こうとして猫にも似ていない。そういう自分の思いを吐露した。人生のうちのかなりの時間を人間発達援助とその研究に費やしたのは間違いないことなのだが，それで社会に何か貢献したことになるのだろうか。心残りは北大の学生・大学院生の方々になにがしかの手伝いをすることができたのかということ，つまりは自分の大学での営みが教育に値したのかどうかということにある。退職後の今でも一抹の不安が残る。

あれから一年経った。長い間，同僚として支えていただいた松田康子，渡辺誠の両先生は，昨年の退職記念行事の開催に加えて，今度は自ら一文を寄せて紀要編集の労まで取ってくださった。それゆえに，こうして教育臨床心理学や臨床教育学を共に学んだ人々との退職記念特集号が刊行されることになった。仕事をもち多忙な日々を過ごしておられる社会人の元院生，それに現院生の方からもご寄稿いただいた。それぞれ，もっとも主張したいことやこの領域での最新の研究成果を論じていただいた。まことにありがたいことである。私は虎を描くことができなかったけれども，これらの人々は飛翔の可能性に満ちている。

さて，この退職記念号の発行の意味を一言をもって評するならば，私の後任人事の凍結により「教育臨床心理学」講義が閉じられるという思いがけない事態を迎えたので，北大教育学部における教育臨床心理学・臨床教育学の研究・教育を歴史的に位置づけて示しておくということに尽きる。満了退職したのは私だが，これまでに提出された学位論文や本号に掲載されている論考の数々は，北大教育学部・教育学研究科・教育学院の研究・教育の結晶であり，それを導いてくださった諸先達に感謝しなければならない。そのことをまずもって述べておく必要があると私は思っている。

申し訳なくも，拙稿では，北大教育学部の教育臨床心理学・臨床教育学の形成過程の前半を論ずることで紙幅が尽きてしまった。しかも，まだ作業の途上にあり，すべてを論じたものではない。

それにしても，もう少し時が経たないと歴史的に過去を評価することはむずかしいというのが

率直なところである。ただ，1952年設置の教育衛生講座・特殊教育講座からはじまった北大の子ども研究，人間研究が延々と続いてきたこと，今後も続いてほしいという願いだけは示したかった。

2

こうして，諸先達にじゅうぶん敬意を表したうえで，私の北大在職期間における研究・教育について，内心忸怩たる思いだが，紀要特集号の義務でもあるので少しだけふれておく。

私は，病院勤務時代から「生活の中での自己の形成」を探求する心理臨床を志してきたつもりである。研究代表者となった科研費研究のテーマは「平成17年度～18年度　軽度発達障害者の青年期における『自己』の発達に関する研究　基盤研究(C)」，「平成20年度～平成22年度　若者自立支援の課題と特別な教育的ニーズに関する総合的研究　基盤研究(B)」，「平成24年度～平成26年度若者自立支援にかかる地域援助体制の再編成に関する研究　基盤研究(C)」というもので，表題の「自己」や「自立」に私の研究主題が結局は表現されている。それは，北大の教育臨床心理学・臨床教育学の形成に与するものだったと思っている。さらには，初代奥田三郎教授が「自我は社会の中で育ち，社会化されて出来上がったものですし，社会はまた個人から成立していて，自我の中に社会があり，社会の中に自我がある」（1965年）と述べておられたことに連なる。長い間，私なりにそう考えてきたことをお許しいただこうと思う。

私は，最終講義の折に，「発達教育臨床の探求と自己の形成」という表題をつけて『最終講義資料集』なる論文集をお配りした。私の教育臨床心理学・臨床教育学なる世界があるとしたら，おそらく，ここに収めた論考等から何かを感じ取っていただくことになるだろうか。

『最終講義資料集』初出一覧

Ⅰ　発達教育臨床の思想

1．それぞれの教育学入門
（北海道大学全学教育「教育学入門Ⅱ」講義資料，2016年）

2.「変えられた」子ども―生活の今を問う
（北海道子ども学会編『子どもロジー』Vol.13・14合併号，2010年　68-74）

3．実践から立ちあがる子どもの見方
（第27回発達心理学会国内研究交流委員会企画シンポジュウム資料，北海道大学，2016年）

4．発達障害のある若者の教育と自立支援―共同のなかでの自己の形成
（教育科学研究会編『教育』779号，2010年　13-20）

5．教師のユーモア精神と養生思想
（教育科学研究会編『教育』797号，2012年　90-97）

Ⅱ　フランス語圏心理学と子どもの研究

6．心理科学にとって歴史的視点とは何か
（心理科学研究会2013年秋季研究集会全体シンポジウム配布資料，北広島市，2013年）

7．子どもの生活指導とアンリ・ワロンの心理学・教育論
（全国生活指導研究協議会北海道支部編『北海道の生活指導』No.20，2016年　13-29）

8．ワロンの発達・教育の思想と発達保障
（全国障害者問題研究会編『障害者問題研究』第32巻第２号，2004年　167-172）

9．ワロンの病理的心理学と臨床的方法
（心理科学研究会編『心理科学』第35巻第１号，2014年　21-29）

10．成長・発達過程における危機的事態からの回復と自己の形成
（『北海道大学大学院教育学研究科紀要』第93号，2004年　29-52）

11．わが国におけるフランス語圏心理学の導入とその受容について
（『北海道大学大学院教育学研究科紀要』第96号，2005年　1-23）

12．わが国におけるフランス語圏心理学の導入とその受容について(2)
（『北海道大学大学院教育学研究科紀要』第106号，2008年　1-20）